

大桑村現庁舎敷地活用のためのアンケート調査結果（概要）

アンケート調査概要

- 1 調査方法：郵送で配布、回収
- 2 調査対象：村内の15歳以上、1,500人
- 3 調査期間：令和2年11月27日～令和2年12月7日
- 4 回収結果：回収数：833票（回答率：55.5%）
- 5 集計方法：集計結果はすべて、小数第2位を四捨五入して小数点第1位まで表記している。
各設問に対して地区別と年代ごとのクロス集計を行った。

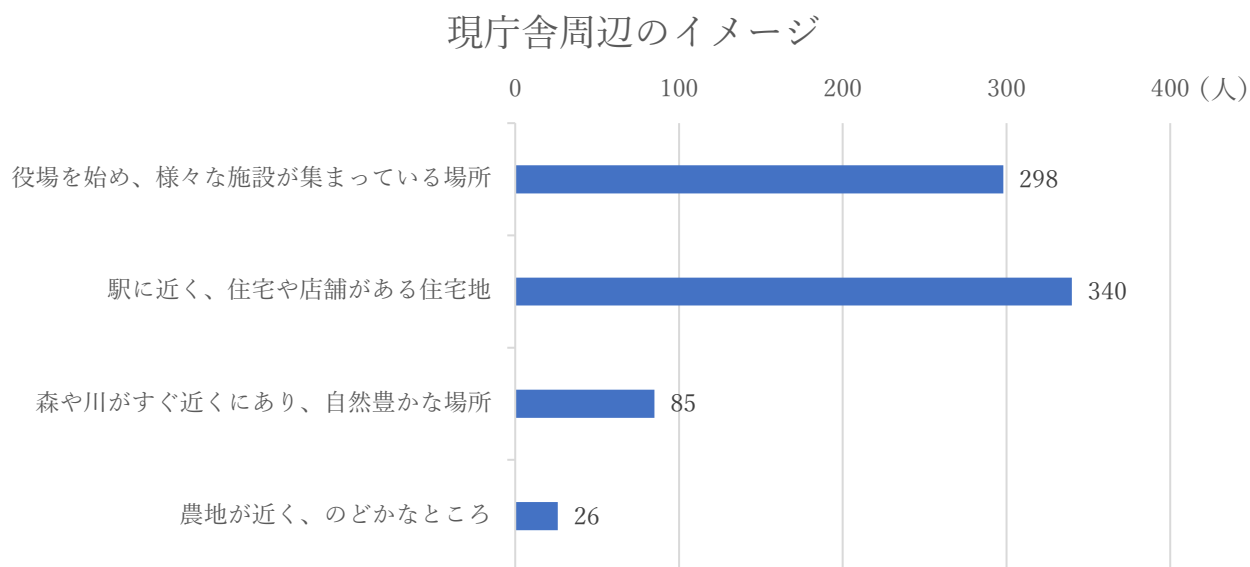
6 アンケート項目

- はじめに（属性：調査結果は別紙）
 - 【F1】あなたのお住まいは
 - 【F2】あなたの性別は
 - 【F3】あなたの年齢は
- 現庁舎周辺のイメージについて
 - 【問1】あなたが思う、現庁舎周辺のイメージを教えてください
- 現庁舎周辺の基本情報について
 - 【問2】あなたは、現庁舎周辺が「土砂災害に含まれることを知っていましたか」
 - 【問3】村役場の移転にともない、現庁舎の建物を取りこわすことを知っていましたか
- 現庁舎敷地の活用について
 - 【問4】建物を取りこわした後は、どのように活用したらよいと思いますか
 - 【問5】問4で「活用する必要はない」とお答えした方に、活用する必要がない理由をお答えください
- 敷地活用のターゲット(利用者)について
 - 【問6】現庁舎の敷地活用は、おもにどこにお住まいの方までを対象としたらよいと思いますか
 - 【問7】現庁舎の敷地活用は、おもにどのような方を対象としたらよいと思いますか
- 敷地活用のための整備の方向性について
 - 【問8】敷地の活用に向けて、整備の方向性はどのようなものが良いと考えますか
 - 【問9】敷地を整備・活用するにあたり、必要だと思われる機能や施設はありますか
- 村内低未利用地に必要な機能・施設について
 - 【問10】現庁舎の敷地だけでなく、村内に活用方法が決まっていない敷地（低未利用地）がある場合、どのような機能や施設が必要だと思いますか
- 自由意見

※本概要については、問1から問10における回答の概要であり、全体の結果のみグラフ化してある。
地区別、年代別のグラフや、自由記入については、別資料により取りまとめている。

【問1】 村民が思う、現庁舎周辺のイメージについて

- 全体の回答としては、「駅に近く、住宅や店舗がある住宅地」と「役場をはじめ、様々な施設が集まっている場所」の順で回答数が多く「農地が近く、のどかなところ」の回答が少ない。

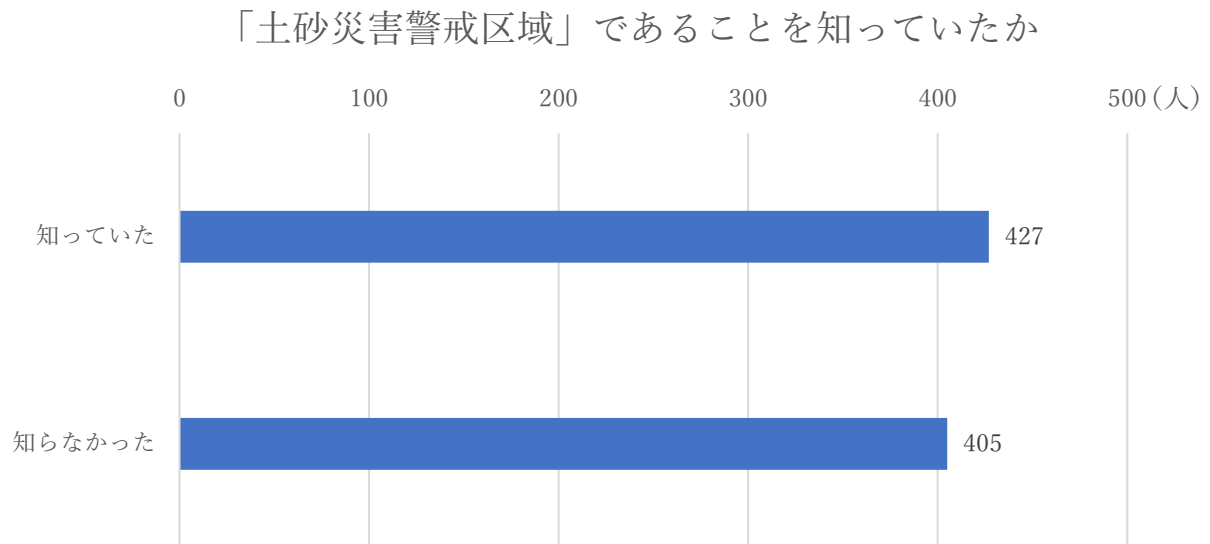


属性別の回答は、下記のとおりである。

- 地区別で見ると、須原地区は「役場を始め、様々な施設が集まっている場所」と「駅に近く、住宅や店舗がある住宅地」が同数の回答であった。須原地区以外は「駅に近く、住宅や店舗がある住宅地」が多かった。また、どの地区も「農地が近く、のどかなところ」の回答が少なかった。
- 年代別で見ると、10歳代～50歳代は「駅に近く、住宅や店舗がある住宅地」が多かったが、60歳代～70歳以上は「役場を始め、様々な施設が集まっている場所」の回答が多かった。どの年代も「農地が近く、のどかなところ」の回答が少ない結果となった。

【問2】 現庁舎周辺が「土砂災害警戒区域」に含まれることを知っていたか

- 全体の回答としては「知っていた」の回答が、「知らなかった」をやや上回った。現庁舎が土砂災害警戒区域に指定されていることは回答者の半分程度の認知であった。

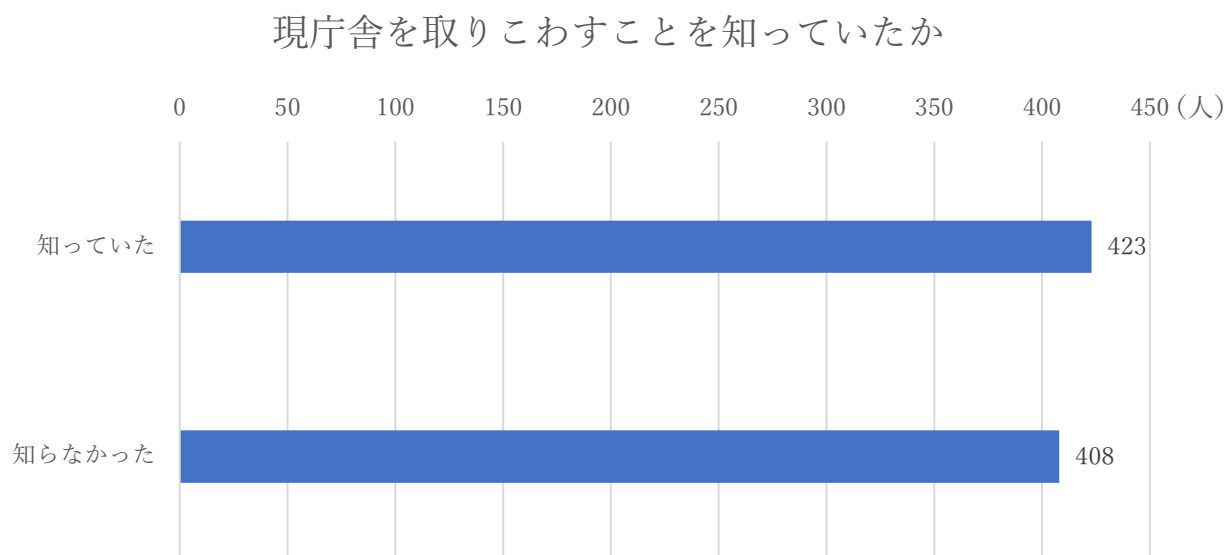


属性別の回答は、下記のとおりである。

- 地区別で見ると長野地区と殿地区は「知っていた」が多かった。特に長野地区では、6割以上の方が「知っていた」と回答した。一方、須原地区と野尻地区は「知らなかった」の回答が多かった。
- 年代別では、10歳代～30歳代は「知らなかった」の回答が多く、40歳代～70歳以上は「知っていた」が多い。

【問3】 現庁舎の建物を取りこわすことを知っていたか

- 全体の回答としては「知っていた」の回答が、「知らなかった」をやや上回り、現庁舎を取りこわすことの認知は半分程度であった。

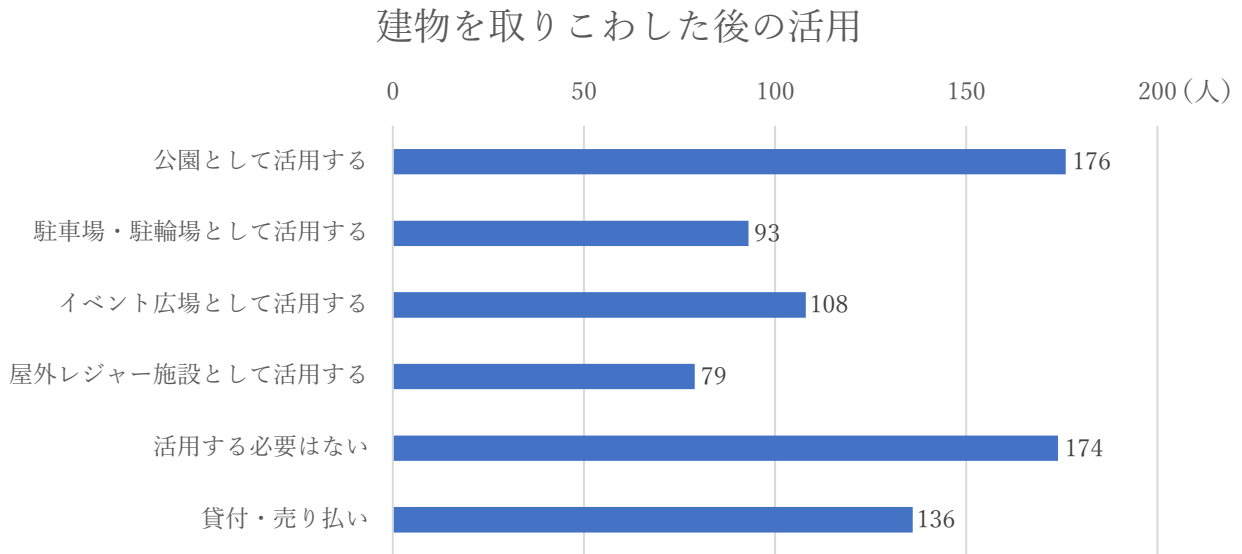


属性別の回答は、下記のとおりである。

- 地区別では、長野地区は「知っていた」が多かったが、長野地区以外の地区は「知らなかった」の回答が多かった。
- 年代別では、20歳代と60歳～70歳以上が「知っていた」が多く、10歳代と30歳代、50歳代は「知らなかった」の回答が多い。40歳代は回答が同数の結果となった。

【問4】 建物を取りこわした後は、どのように活用したらよいか

- 全体の回答としては「公園として活用する」と「活用する必要はない」がほぼ同数であり、次いで「貸付・売り払い」「イベント広場として活用する」「駐輪場・駐車場として活用する」の順であった。「屋外レジャー施設として活用する」の回答は少なかった。



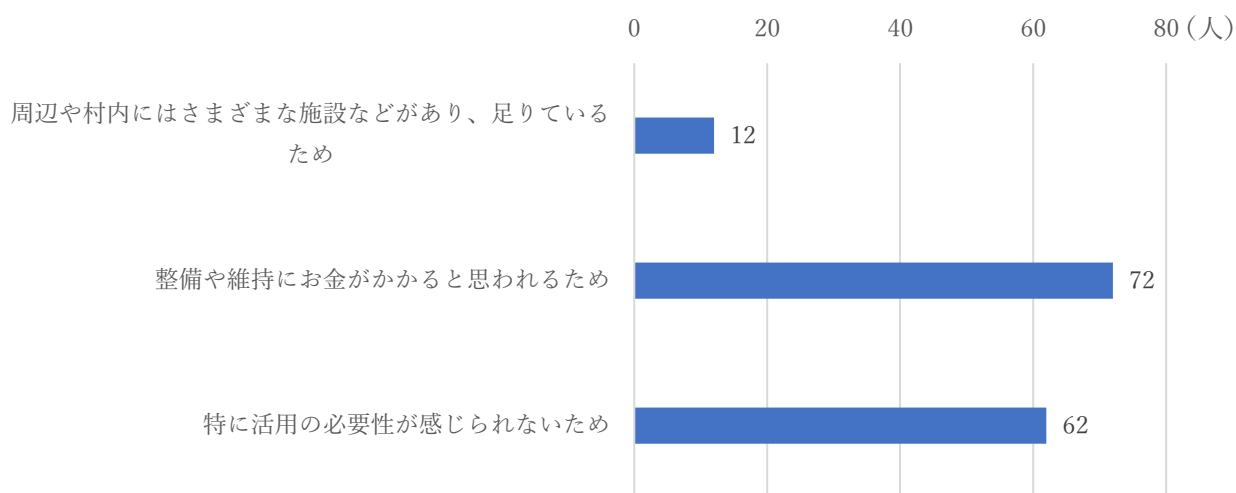
属性別の回答は、下記のとおりである。

- 地区別では、須原地区以外の地区は「公園として活用する」の回答が多かったが、須原地区は「活用する必要はない」が多かった。殿地区は「公園として活用する」「活用する必要はない」どちらの回答も同数の結果になった。
長野地区は「イベント広場として活用する」の回答が少なく、他地区は「屋外レジャー施設として活用する」が少なかった。須原地区は同数で「駐車場・駐輪場として活用する」の回答も少なかった。
- 年代別では、20歳代、50歳代、70歳以上が「公園として活用する」の回答が多く、10歳代、40歳代、60歳代は「活用する必要はない」の回答が多い。30歳代は「貸付・売り払い」の回答が多かった。
20歳代と70歳以上は「駐車場・駐輪場として活用する」が少なく、20歳代は同数で「イベント広場として活用する」も少なかった。
30歳～60歳代は「屋外レジャー施設として活用する」の回答が少なく、10歳代は「貸付・売り払い」が少ない。

【問5】 問4で「活用する必要はない」と答えた理由

- 全体の回答としては、「整備や維持にお金がかかると思われるため」の回答が多く、次いで「特に活用の必要性が感じられないため」が多かった。「周辺や村内にはさまざまな施設などがあり、足りているため」の回答は少なかった。

活用する必要がない理由の回答

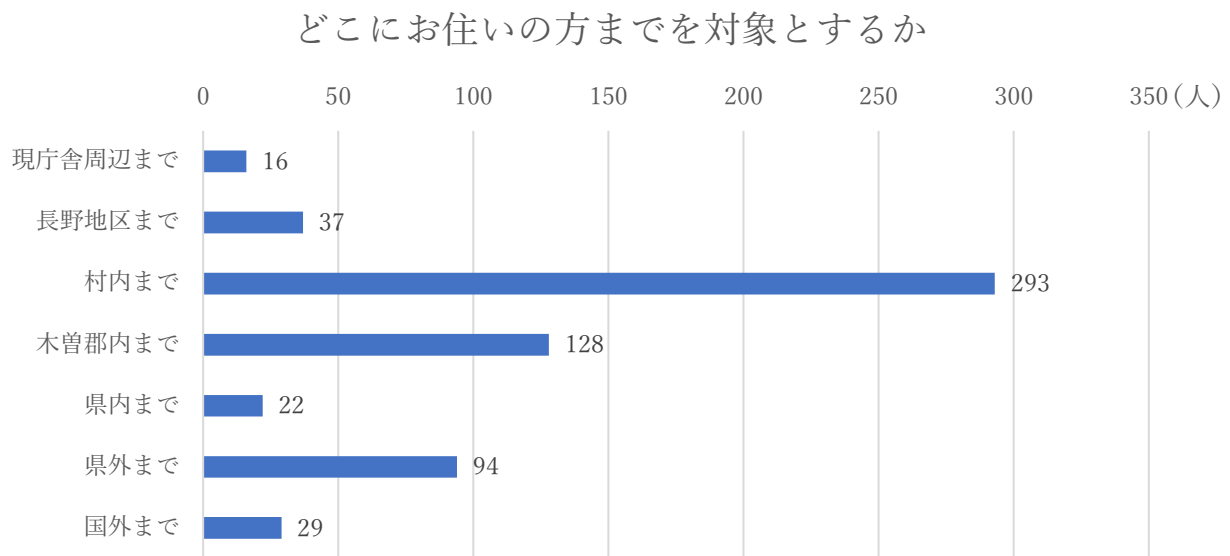


属性別の回答は、下記のとおりである。

- 地区別では野尻地区を除き「整備や維持にお金がかかると思われるため」が多かった。野尻地区は「特に活用の必要性が感じられないため」が多かった。どの地区も「周辺や村内にはさまざまな施設などがあり、足りているため」の回答が少なかった。
- 年代別では、30歳代、40歳代、60歳代、70歳以上は「整備や維持にお金がかかると思われるため」の回答が多く、10歳代、20歳代、50歳代は「特に活用の必要性が感じられなかったため」の回答が多かった。
どの年代も「周辺や村内にはさまざまな施設などがあり、足りているため」の回答が少なかった。

【問6】 現庁舎の敷地活用は、どこにお住まいの方までを対象としたらよいか

- 全体の回答としては、「村内まで」が多く、次いで「木曽郡内まで」となった。「現庁舎周辺まで」の回答は少なかった。
活用する上でのターゲット範囲は「村内まで」が望ましく、広くても木曽郡内までと考えている方が多い。

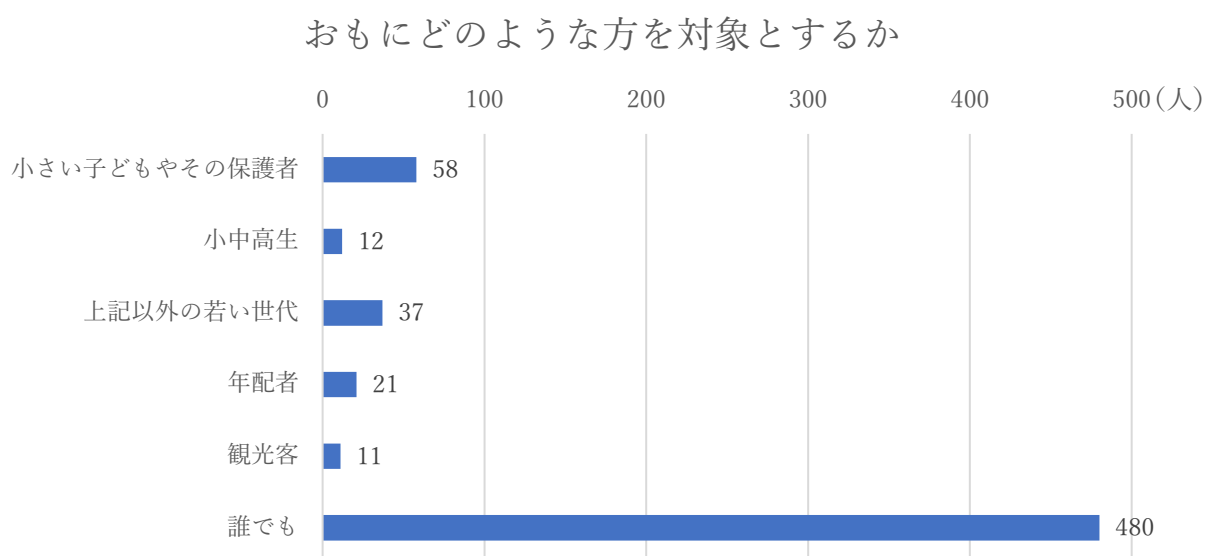


属性別の回答は、下記のとおりである。

- 地区別では、どの地区も「村内まで」の回答が多かった。
野尻地区を除き「現庁舎周辺まで」の回答が少ないが、同数で長野地区は「県内」、殿地区は「長野地区まで」が少なかった。野尻地区は「県内まで」と「国外まで」が同数で少なかった。
- 年代別で見ると、30歳代以外は「村内まで」の回答が多かった。30歳代は「木曽郡内まで」の回答が多かった。
20歳代、40歳代、60歳代は「現庁舎周辺まで」の回答が少なく、10歳代と30歳代は「長野地区まで」が少ない。50歳代と70歳以上は「県内まで」の回答が少なかった。

【問7】 現庁舎の敷地活用は、おもにどのような方を対象としたらよいか

- 全体の回答としては「誰でも」の回答が多く、「観光客」の回答が少なかった。
不明・その他回答を除く 619 名中、「誰でも」の回答は 480 名と圧倒的に多かった。かなり離れるが、その次に多いのが「小さい子どもやその保護者」である。
回答した方の多くは、ターゲットを想定しない方が良いと考えているといえる。



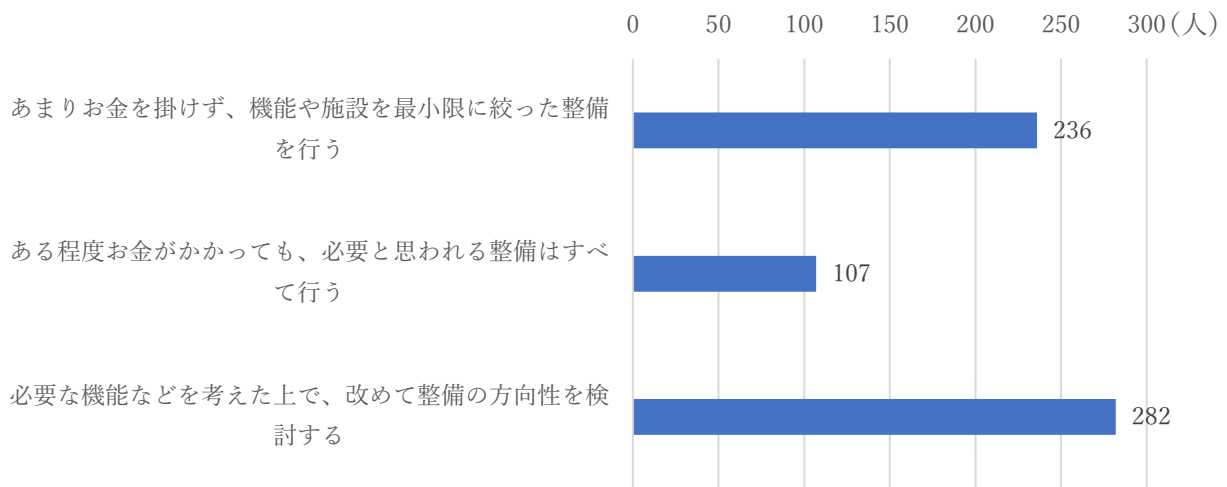
属性別の回答は、下記のとおりである。

- 地区別では、全体的に「誰でも」の回答が多かった。
「小さい子どもやその保護者」以外の回答は、長野地区と野尻地区の「若い世代」を除き、概ね全地区で少なかった。
- 年代別に見ても、全体的に「誰でも」の回答が多かった。
その他の回答は「小さい子どもやその保護者」を除き、全体的に少ない傾向であったが、どの年代も回答者が当てはまると推測される属性の回答が若干多い結果となった。

【問 8】 敷地の活用に向けて、整備の方向性はどのようなものが良いか

- 全体の回答としては「必要な機能などを考えた上で、改めて整備の方向性を検討する」の次に「あまりお金を掛けず、機能や施設を最小限に絞った整備を行う」が多かった。「ある程度お金がかかっても、必要と思われる整備はすべて行う」の回答は少なかった。

整備の方向性はどのようなものがいいか



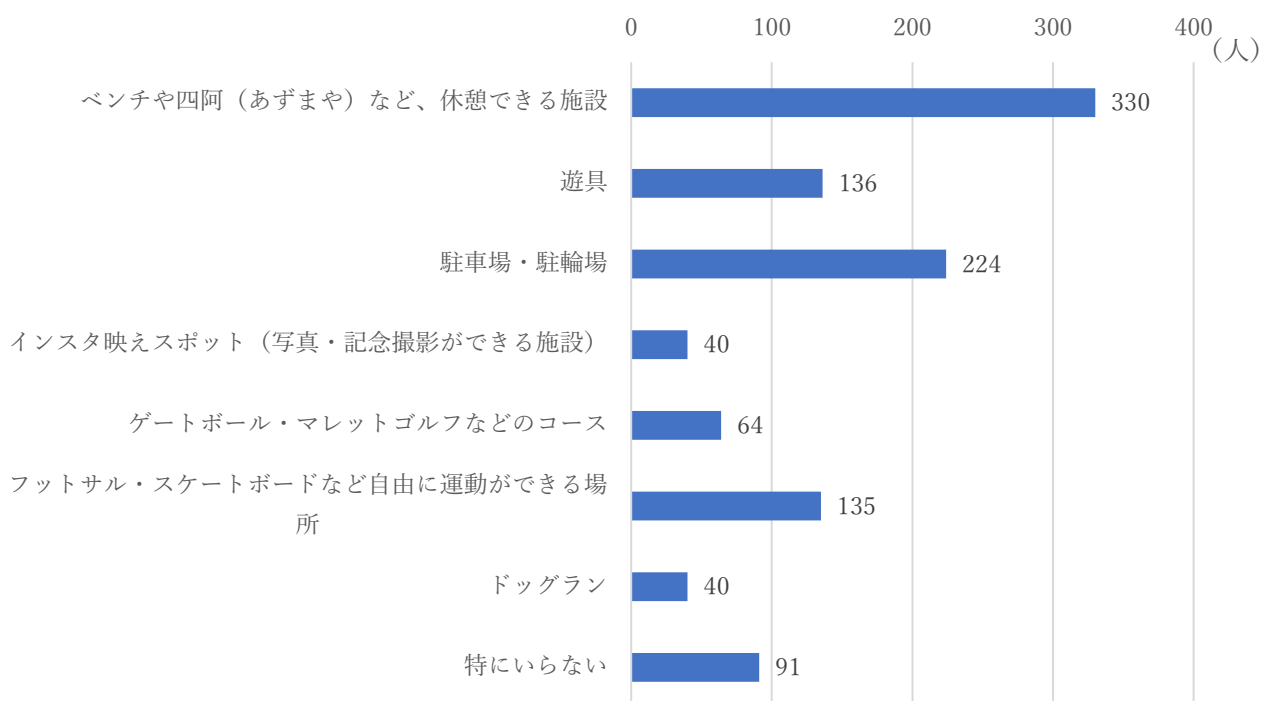
属性別の回答は、下記のとおりである。

- 地区ごとに見ると、長野地区以外は「必要な機能などを考えた上で、改めて整備の方向性を検討する」が多かったが、長野地区は「あまりお金を掛けず、機能や施設を最小限に絞った整備を行う」の回答の方が僅かに多かった。どの地区も「ある程度お金がかかっても、必要と思われる整備はすべて行う」が少なかった。
- 年代別でも、全体的に「必要な機能を考えた上で、改めて整備の方向性を検討する」の回答が多かった。少なかった回答は、10歳代を除き、「ある程度お金がかかっても、必要と思われる整備はすべて行う」であった。10歳代で少なかった回答は「あまりお金を掛けず、機能や施設を最小限に絞った整備を行う」であった。

【問9】 敷地を整備・活用するにあたり、必要と思われる機能や施設

- 全体の回答としては、「ベンチや四阿（あずまや）など、休憩できる施設」が多く、「インスタ映えスポット（写真・記念撮影ができる施設）」と「ドッグラン」の回答が同数で少ない。

整備・活用に必要と思われる機能や施設



属性別の回答は、下記のとおりである。

- 地区ごとでは「ベンチや四阿（あずまや）など、休憩できる施設」が多い。
須原地区は「インスタ映えスポット（写真・記念撮影ができる施設）」が最も少なく、それ以外の地区は「ドッグラン」の回答が少なかった。
- 年代別で見ると、10歳代、40歳代～70歳以上は「ベンチや四阿（あずまや）など、休憩できる施設」が多かった。20歳代は「遊具」が多く、30歳代は「駐車場・駐輪場」の回答が僅かに「ベンチや四阿（あずまや）など、休憩できる施設」よりも多かった。
その他の回答はそれほど多くはないが、10歳代で「フットサル・スケートボードなど自由に運動ができる場所」の回答が2割を超えている。

【問 10】 村内低未利用地に必要と思われる機能や施設

■ 必要な機能

- 必要な機能としては、「人が集まれる場所 (18)」という回答が多かった。具体的には、「憩える場、遊べる場 (4)」「広場 (3)」「子どもの遊び場 (12)」等の意見が比較的多い結果となった。これは、必要な施設として、「公園 (25)」「健康増進施設 (6)」「プール施設など (5)」といった意見が多く挙げられた結果と合致する。
- また、取り組む方向性として、「企業誘致 (7)」「若い人が住みやすくなること (6)」といった移住・定住に関する意見が多かった。

■ 必要な施設

- 最も多かったのは、「住宅地・宅地 (82)」であり、潜在需要の多さや関心の高さを感じさせる。
- その他多かったものとして「駐車場・駐輪場 (26)」であり、次いで「公園 (25)」であり「避難所 (13)」という回答も挙がっている。
- 具体的な施設としては、「飲食店 (11)」「店、売店 (9)」「健康増進施設 (6)」「プール施設など (5)」「図書館・本屋 (5)」、洋服・靴屋 (4)」などが一定数ある。
- さらに詳細な施設としては、「トレーニングジムなどの器具 (34)」「貸農園、貸倉庫 (11)」といった意見が多く、公園的な施設として「ベンチ・四阿・水道 (4)」「お花畑 (4)」といった意見や「公衆トイレ (7)」といった意見もあった。
- また、具体的に年齢層に言及している意見として「若い人の働き場所など (10)」「若い人や定住向けの宅地・住宅など (5)」「老人ケア施設や集える場所 (8)」といった意見も一定数あった。

アンケート調査結果から見た村民意識と今後の方向性

以上、アンケート調査結果の概要を述べたが、結果を基に考察する。

■ 各設問の意図

まず、設問の狙いであるが、問1～問3については、改めて計画地の前提条件を回答者に再認識してもらうことで、少しでも具体的な整備の方向性を考えやすいようにした。

問10を除く問4以降は、今後の活用方法を検討するにあたり、詳細な検討は来年度以降であることを踏まえ、整備の方向性を検討するのに必要な基礎情報を収集することを目的とした。

具体的には、問4、問5で大まかな活用方法を把握し、それを踏まえたターゲット（利用者）について、問6、7で想定し、それらを考慮した上で整備の方向性を意識してもらうようにした。

なお、問10については、村内にある低未利用地について、どのような方向性で整備を行ったほうが良いかの情報把握である。

■ 現庁舎敷地活用における村民意識

問2、3に関わる土砂災害警戒区域であることや現庁舎を取りこわすことを知っている村民（回答者）が概ね半数程度ずつだったことを考えると、周知不足といえることから、今後どのように情報公開・共有していくか、ということが課題となったともいえる。

活用方法については、「公園として活用する」と「活用する必要はない」の両意見がほぼ同数であったが、「活用する必要はない」と感じている人の約1割程度の方は、選択肢にはないものの、自由記入で「土砂災害警戒区域」であることを理由として挙げている。こうした意識は「公園として活用する」と答えた方の中にも一定程度いると思われ（地区ヒアリングにおいても「公園くらいにしか利用できないのでは」といった意見が挙がった）、活用方法にかなりの制約があることを認識していることの表れであるともいえる。

そうした一方で、「貸付・売り払い」といった意見も比較的多かったことは、村内低未利用地の活用に必要な施設（問10）として「住宅地・宅地」の意見が多かったことから、村内における需要の高さや必要であると認識されていることの表れといえる。

ターゲット（対象者）については、概ね村内在住か遠くても木曾郡内在住者の誰でも利用できるような場所や施設が良いと考えている方が多い結果となっている。しかしながら、実際整備が必要となった際には対象とする年齢層や属性は想定して検討する必要があることから、注意が必要である。

また、整備の方向性としては、「必要な機能などを考えた上で、改めて整備の方向性を検討する」が多かったが、「あまりお金を掛けず、機能や施設を最小限に絞った整備を行う」といった意見も少なからずあることから、まずは、現庁舎敷地における必要な機能の検討が重要視されているといえるであろう。

ただし、問5において「整備や維持にお金がかかると思われるため」「特に活用の必要性が感じられないため」と答えている方が一定数いることから、整備の是非についても慎重に検討することが求められているといえる。

今後は、問10を含めたアンケート結果やヒアリング結果等を参考にしながら、地理的条件や社会的条件を踏まえ、村内における現庁舎敷地の位置付けを検討し、方向性を決定するのが良いと考えられる。

以上